

MAP

- 大岡山キャンパス 東京急行大井町線・目黒線（大岡山駅下車徒歩1分）
- すすかけ台キャンパス 東京急行田園都市線（すすかけ台駅下車徒歩5分）
- 田町キャンパス JR山手線・京浜東北線（田町駅下車徒歩2分）



東京工業大学概要 2008/2009

TOKYO TECH
Pursuing Excellence

国立大学法人 東京工業大学

広報センター

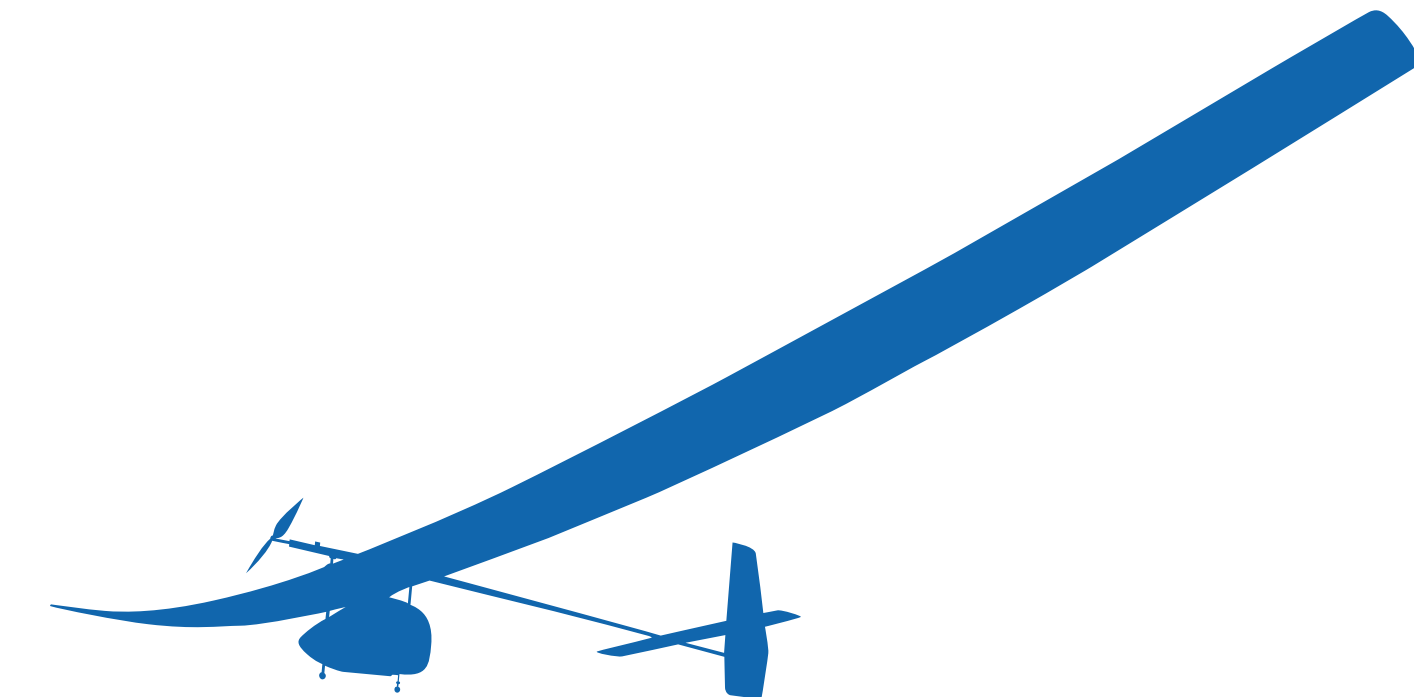
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1

Tel: 03-5734-2975

Fax: 03-5734-3661

URL: <http://www.titech.ac.jp/>

2008年4月発行



国立大学法人 東京工業大学

確かな基礎力を修得した 「創造型人間」の育成

東京工業大学について

東京工業大学長 伊賀 健一



Contents

- 01 学長挨拶
- 02 進化を支える運営体制
- 04 世界をリードする研究・教育活動
- 06 国際的リーダーシップを発揮できる創造型人間の育成
- 08 世界をリードする研究教育拠点の形成
- 10 知の創造と活用による産学連携・国際連携
- 12 文化・スポーツ活動
- 13 役員等紹介

東京工業大学の歩み

- 1881. 5. 26 東京職工学校設立
- 1901. 5. 10 東京高等工業学校と改称
- 1929. 4. 1 東京工業大学へ昇格
- 1949. 5. 31 国立東京工業大学新設、工学部設置
- 1953. 4. 1 大学院工学研究科設置
- 1954. 4. 1 建築材料研究所、資源化学研究所、精密工学研究所、
窯業研究所を整備
- 1955. 7. 1 工学部を理工学部に変更
- 1956. 4. 1 大学院工学研究科を大学院理工学研究科に改称
- 1958. 4. 1 建築材料及び窯業研究所を統合し、
工業材料研究所附置
- 1964. 4. 1 原子炉工学研究所附置
- 1967. 6. 1 理工学部を理学部、工学部に分離
- 1975. 4. 1 大学院総合理工学研究科設置
- 1990. 6. 19 生命理工学部設置
- 1992. 4. 1 大学院生命理工学研究科設置
- 1994. 4. 1 大学院情報理工学研究科設置
- 1996. 4. 1 大学院社会理工学研究科設置
- 5. 11 工業材料研究所を応用セラミックス研究所に改組
- 2004. 4. 1 国立大学法人東京工業大学設立
- 2005. 4. 1 大学院イノベーションマネジメント研究科設置

現在3学部、6研究科、4研究所
38各種センター等

東京工業大学（東工大、Tokyo Institute of Technology）は、1881年設置の東京職工学校、蔵前に位置した東京高等工業学校を経て1929年に大学となって以来127年の歴史をもつ我が国最大の理工系大学です。常に時代のフロントを切り拓き、頼りになる理工系大学の役割を果たしてきました。2004年4月の国立大学法人化を契機に、「流石は東工大」、というイメージがいっそう強くなってきました。つまり、密度の高い専門教育とユニークな卓越研究は東工大の存在を内外から認めていただくところとなっています。

東工大は、理学、工学、生命理工学の3学部、理工学、生命理工学、総合理工学、情報理工学、社会理工学、イノベーションマネジメントの6大学院研究科、資源化学、精密工学、応用セラミックス、原子炉工学の4附置研究所、そして数多くの研究教育施設・センターにより、社会、産業界の要請に応えてきました。「理工へ行くなら東工大」、「学生をとるならまず東工大」です。これから激変する産業、社会構造に対応すべく、先端科学技術、融合領域、新規領域などに意欲的に取り組み、多様性のあるそれぞれの分野で、本学が誇る多彩な教授・准教授・助教の教員群、研究員の諸君が国際的に活躍し、先導的な役割を果たしています。文部科学省の21世紀COE (Center of Excellence)は、東工大が世界に誇るもっとも強い研究分野につくられたものであり、世界の研究教育拠点を目指しました。12のCOEでは、世界に通じる非常に高い研究水準の下で、博士課程の大学院教育システム改革が研究科を越えて行われました。後継

事業のグローバルCOEでは、2007年度に5チームが採択されました。2005年には、スーパーCOEと言われる文部科学省のプログラムで“統合研究院”が設立されました。異なる研究分野の研究者を結集して、想定した重要課題解決を図るソリューション研究を目指しています。また、教育分野においても文部科学省の2007年度大学院教育改革プログラムに5チームが採択されました。

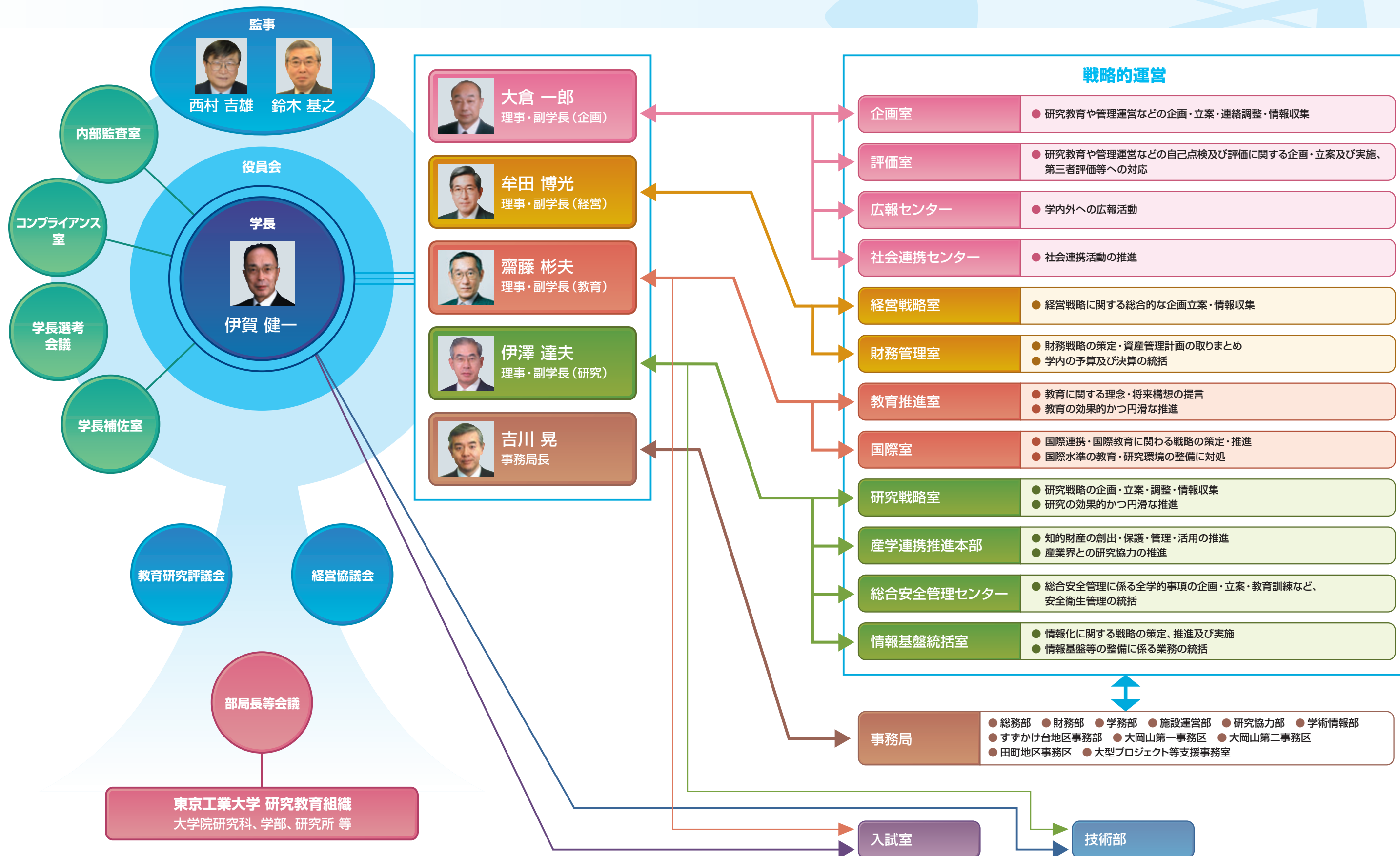
本学の創造性豊かな教育に伴って、ノーベル賞受賞者の白川英樹博士をはじめ、数多くの優れた人材を世に送り出してきた実績をもとに、確かな基礎力を修得した「創造型人間」の育成を目指しています。“ものづくり教育研究支援センター”を土壌とし、実践の場で“ものづくり”に自主的・主体的に取り組み、確かな基礎学力と深い専門性の修得へと訓練する独得のプログラムもあります。

特筆すべきものとして、アジア最速のスーパーコンピュータ“TSUBAME”の完成、世界に開かれた若手研究者のGlobal Edge Instituteの設立、国際的リーダーシップを育む東工大・清華大合同大学院の開設、さまざまな国際連携、組織的・戦略的な産学連携など、東工大は世界に窓を開いています。大学世界ランキング工学分野では世界第22位、総合では日本第4位（2007年THES-QS）、鳥人間コンテストの優勝や混声合唱団の10年連続金賞など、国内外での高い評価は、全学教職員、学生を挙げてのなみなみならぬ努力の成果に他なりません。どうぞ、東工大に御注目下さい。

進化を支える運営体制

自律的／戦略的な運営体制が進化を支える

国立大学法人 東京工業大学 運営組織



世界をリードする研究・教育活動

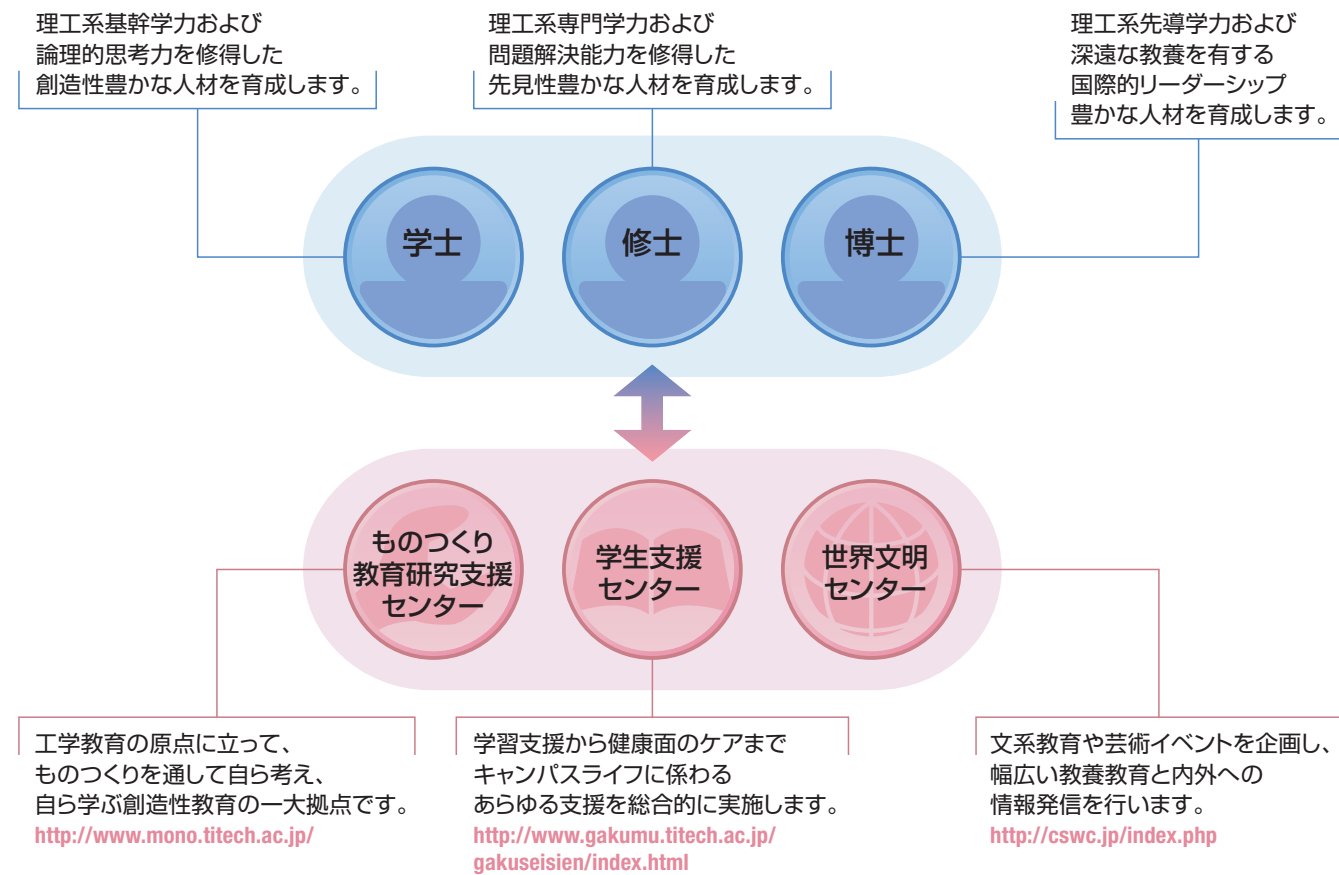
研究および教育を通して人類社会の発展に貢献

東京工業大学 研究教育組織



国際的リーダーシップを発揮できる 創造型人間の育成

「卓越性と多様性」の教育プログラムにより国際性と創造性豊かな人材を育成します



国際大学院プログラム

<http://www.gakumu.titech.ac.jp/ryugaku/office/igp/top.html>

本学は、長年にわたる国際コースなどの留学生教育の経験を生かし、新たに国際大学院プログラムを設置しました。国際大学院プログラムは講義を全て英語で提供する国際的な大学院プログラムです。履修する専門分野は様々ですが、多くは国際的課題となっている分野を専門とするコース（各プログラムに設置）において、関連する複数の専攻が教育を実施します。専門以外にも、教養・文化などの講義、日本語講義（初級～上級）を準備し、修了後、日本で職を求める学生が、日本社会で活躍できるよう工夫が施されています。本プログラムは、世界各国から本学の交流協定締結校出身学生を中心に優秀な学生に入学を許可します。特に優秀な学生には、文部科学省国費奨学金（69名）が与えられます。大学院の課程は、大部分が本学の通常大学院でも実施している、博士一貫教育課程ですが、専門分野によっては修士課程、博士課程などの課程が準備されているコースもあります。

プログラム

- 持続可能な発展のための国際高等技術者育成特別プログラム
- 都市・建築デザイン国際協働研究による人材養成プログラム
- 日本との架け橋となる行動的科学技术者育成プログラム
- 博士一貫教育・バイオ理工学国際コースプログラム
- 日本の先端ITのグローバル化を担う人材育成プログラム
- 技術の効果的利活用のための社会理工学国際プログラム技術の利活用コース
- 日本の地震防災技術による国際貢献を担う高度技術者の育成プログラム
- 東工大―清華大大学院合同プログラム（ツィニングプログラム）
- 東工大―理研連携国際スクール

学部教育プログラム

本学が培ってきた専門教育を基調とし、様々な斬新な教育プログラムを取り入れています。本学と東京医科歯科大学、東京外国語大学、一橋大学による四大学連合のメリットを生かし、他大学でもう一つの専門分野を学び、複数学士を取得することも可能な「複合領域コース」。国際的活動・社会貢献など新たな視点を取り込み、学生が自ら考え自ら学ぶ科目を、継続した教育理念とカリキュラム体系のもとで実施する「進化する創造性教育」など、本学は、卓越性と多様性、創造性を特色とする教育プログラムを全学的に大きく展開しています。

- 四大学連合「複合領域コース」
<http://www.gakumu.titech.ac.jp/kyoumu/combined/index.html>
- 進化する創造性教育

特色GP

- http://www.eduplan.titech.ac.jp/plan_GP.html
- 小中学校用バイオ教材開発による競創的教育
- 工学教育プログラムの継続的進化

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム

- 3相の<ことづくり>で社会に架橋する

理数学生応援プロジェクト

- 理工系学生能力発見・開発プロジェクト
<http://www.cradle.titech.ac.jp/elite/index.html>



世界最高の理工系大学の実現

大学院教育プログラム

計画的なカリキュラムと研究指導により、従来より短期間で博士の学位を取得できる「博士一貫教育プログラム」。博士後期課程と技術経営専攻（専門職学位課程）に同時に大学院学生の身分を置き、博士と技術経営修士（専門職）の両方の学位取得を目指す「デュアルディグリープログラム」。現代社会が抱える様々な課題解決を目指す、専攻・研究科横断型の「大学院特別教育研究コース」。中国清華大学と本学の学生がそれぞれのキャンパスで共に学び、両大学の修士・博士の学位を取得する「大学院合同プログラム」。英語講義をベースとするカリキュラムの「国際大学院プログラム」など、様々な革新的な教育プログラムを創出しています。

- 博士一貫教育プログラム
<http://www.idep.titech.ac.jp/>
- デュアルディグリープログラム
- 大学院特別教育研究コース
- 国際大学院プログラム
<http://www.gakumu.titech.ac.jp/ryugaku/office/igp/top.html>

戦略的国際連携支援

- <http://ttjp.ipc.titech.ac.jp/>
- 東工大―清華大 大学院合同プログラム

大学院教育改革支援プログラム

- 高度化学計測能力を備えた先導的研究者養成
- 「研究者高度育成コース」の発展的強化
<http://icas.geo.titech.ac.jp/>
- 国際連携を核とした先導的技術者の育成
<http://www.eng.titech.ac.jp/igse/index.html>
- 大学院教育プラットフォームの革新
<http://www.3mech.titech.ac.jp/realization.html>
- 実践・理論融合の国際的社会起業家養成
<http://www.soc.titech.ac.jp/~soc-entre/event/info.html>

社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

- 企業内社会人のキャリアアップを支援する「エッセンシャルMOT」
<http://www.mot.titech.ac.jp/cumot/>

サービス・イノベーション人材育成推進プログラム

- 社会的サービス価値デザイン・イノベーター育成プログラム
<http://www.service-i.titech.ac.jp>

派遣型高度人材育成協同プラン

- http://www.eduplan.titech.ac.jp/plan_hakenpuran.html
- 産学協同による実践的PBL教育プログラム
- 社会共生型創発力を育む産学連携実践教育

長期海外留学支援

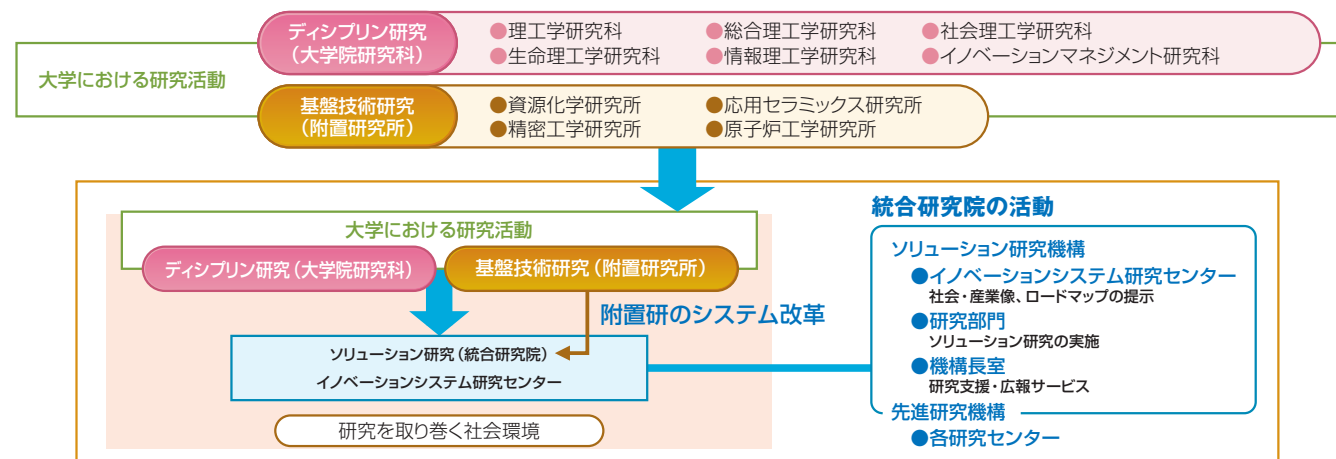
- 東京工業大学 長期海外留学支援プログラム

世界をリードする研究教育拠点の形成

「分化と統合」により知のフロンティアを拓き、世界に誇る研究教育拠点を形成します

世界最高の理工系大学の実現

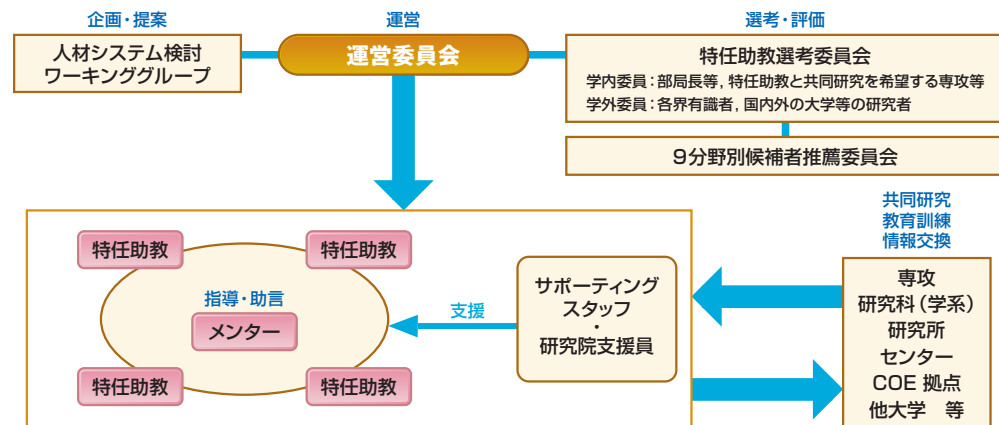
統合研究院 <http://www.iri.titech.ac.jp>



本研究院は、スーパーCOEと言われる文部科学省のプログラムにより、2005年に開設されました。院長である学長の強いリーダーシップの下に運営され、「ソリューション研究機構」と「先進研究機構」が置かれています。「ソリューション研究機構」には将来ニーズに対するソリューションを導くためのハードの研究を行う「研究部門」が置かれ、中でもエネルギー、医療・バイオ、医療情報の3つのプロジェクトは、研究の実施体制を整備し充実した研究を推進しています。また、イノベーションシステム研究センターでは、将来のあるべき姿を示し、それを機軸と

した課題の設定やソリューションに至るまでのロードマップを提示するシンクタンク機能を発揮します。「先進研究機構」は12の21世紀COEプログラムの成果を更に発展させるための研究センター群(9頁参照)によって構成され、最高水準の最先端研究を推進しています。このうち、4つのプログラムについては、5年間の拠点育成期間を通して大学の持つ教育研究機能の再編を行った結果、5つのグローバルCOEプログラムへと発展を遂げています。

Global Edge Institute <http://www.global-edge.titech.ac.jp/> グローバルエッジ研究院



本研究院では、世界レベルの活躍が見込まれる優秀な若手研究者を国内外より発掘・採用し、自立した研究の促進、分野を越えた研究交流の場の形成を目指しています。その実現に向け本学初のテニュアトラック制度・メンター制度を導入し、全学的な人材システム改革を促進しています。

※文部科学省の平成18年度科学技術振興調整費「若手研究者の自立的環境整備促進事業」の一環として設立した、既存の研究科等から独立した学長直属の組織です。

本研究院に特任助教として採用された若手研究者は、約5年間の任期において、独立した研究スペースとスタートアップ資金を足かりとして、メンターの指導を仰ぎながら世界最高水準の研究を進めていきます。英語使用を原則とし、国際性も培っていきます。任期終了前に行うテニュア審査に合格した場合には、本学の准教授もしくは教授への道が開かれます。

グローバルCOEプログラム http://www.rso.titech.ac.jp/g-coe/global%20coe_top.htm

「グローバルCOEプログラム」とは、文部科学省が2007年度から開始したプログラムで、「21世紀COEプログラム」の基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化しようとするものです。世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援することで、国際競争力のある大学づくりを目指しています。

生命時空間ネットワーク進化型教育研究拠点 白髭 克彦 教授	材料イノベーションのための教育研究拠点 竹添 秀男 教授
新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点 鈴木 啓介 教授	計算世界観の深化と展開 渡辺 治 教授
フォトニクス集積コアエレクトロニクス 小山 二三夫 教授	2007年度採択 拠点とリーダー

21世紀COEプログラム http://www.rso.titech.ac.jp/coe21/coe21_top.htm

「21世紀COE(センター・オブ・エクセレンス)プログラム」とは、世界最高水準の研究教育拠点の形成を目指すため、2002年度から文部科学省において実施されているプログラム、リーダー、研究センターです。

インスティテューショナル技術経営学 渡辺 千仞 教授 インスティテューショナル技術経営学研究センター	エージェントベース社会システム科学の創出 出口 弘 教授 エージェントベース社会システム科学研究センター
地球：人の住む惑星ができるまで 高橋 栄一 教授 地球史研究センター	量子ナノ物理学 安藤 恒也 教授 量子ナノ物理学研究センター
先端ロボット開発を核とした創造技術の革新 廣瀬 茂男 教授 スーパーメカノシステム創造開発センター	都市地震工学の展開と体系化 大町 達夫 教授 都市地震工学センター
世界の持続的発展を支える革新的原子力 関本 博 教授 革新的原子力研究センター	大規模知識資源の体系化と活用基盤構築 古井貞熙 教授 大規模知識資源センター
生命工学フロンティアシステム 半田 宏 教授 バイオフロンティアセンター	分子多様性の創出と機能開拓 山本 隆一 教授 分子理工学センター
産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成 細野 秀雄 教授 先進ナノマテリアル研究センター	フォトニクスナノデバイス集積工学 荒井 滋久 教授 集積光電子工学研究センター

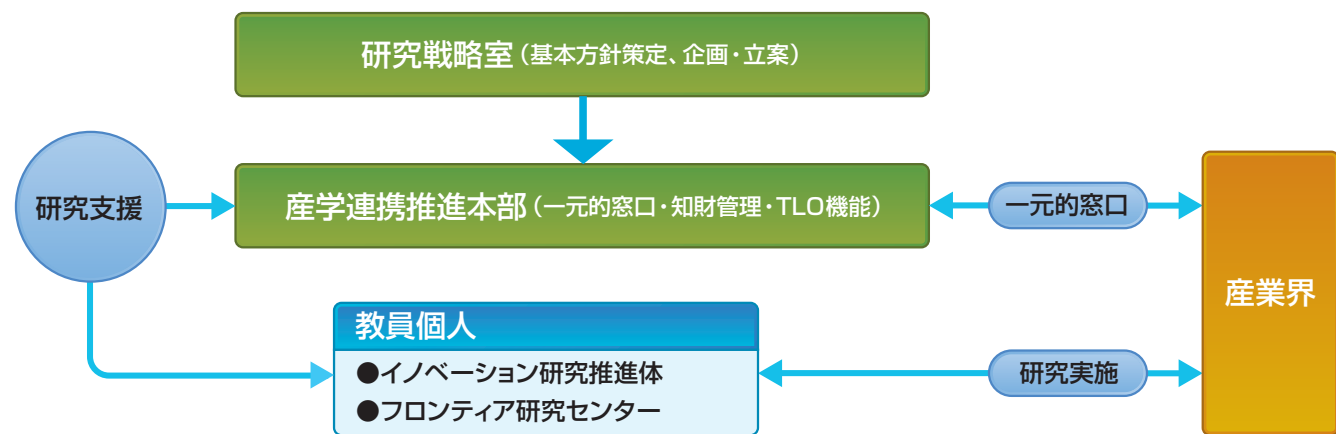
2004年度採択 2003年度採択 2007年度終了 2002年度採択 2006年度終了

知の創造と活用による産学連携・国際連携

生み出された知を核に、地域、産業、そして世界と連携する
新たなグローバルネットワークを形成します

世界最高の理工系大学の実現

産学連携



TLO機能を産学連携推進本部に学内統合

2007年4月に、(財)理工学振興会が東工大TLOとして担っている機能を産学連携推進本部に統合しました。その際、基本的に(財)理工学振興会の産学連携コーディネーターを引継ぎ、事業の継続性を確保しつつ、体制を強化しました。これにより、産学連携推進活動窓口の産学連携推進本部への一本化が名実ともに実現し、知財の発掘・維持管理・活用までを一元的に取り扱うことが可能になり、学外・学内へのいっそうのサービス向上が可能になります。



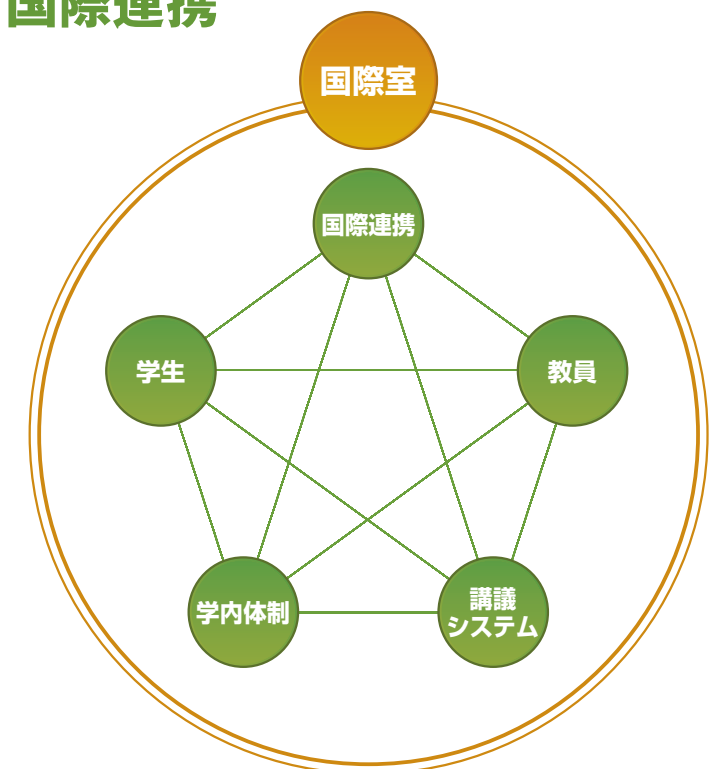
Office of Industry Liaison
<http://www.sangaku.titech.ac.jp/>

企業との組織的連携

メーカーとはそれぞれ、次世代を担う製品や技術の研究開発に向けて組織的な連携を図っていきます。さらに商社との連携では、新技術と知的財産の事業化による社会的価値の創造という観点からの協定を締結。より広範囲なテクノロジーマーケティングの展開をめざします。

三洋電機株式会社 2004年1月21日 「次世代環境技術分野」	三菱化学株式会社 2004年1月21日 「化学変換プロセス技術及び新機能性材料技術」	株式会社富士通研究所 2004年1月22日 「IT分野の先端技術」	三菱電機株式会社 2004年2月27日 「次世代先端デバイス技術」
松下電器産業株式会社 2004年3月11日 「次世代エレクトロニクス分野のコア技術」	三菱商事株式会社 2004年7月22日 「新技術と知的財産の事業化による社会的価値創造」	株式会社三井住友銀行 2004年10月1日 「新技術及び新産業の創出を通じた社会の持続的発展」	凸版印刷株式会社 2004年10月13日 「コーティング技術、微細加工技術を活用したナノ薄膜利用技術」
住友化学株式会社 2005年4月6日 「次世代材料技術・触媒技術・ライフサイエンス」	キヤノン株式会社 2005年8月2日 「先端材料とイメージング技術」	株式会社半導体理工学研究センター 2006年9月1日 「次世代半導体技術」	財団法人神奈川科学技術アカデミー 2007年4月2日 「研究者交流、科学技術人材育成・普及活動、地域振興に関する活動」
マイクロソフトコーポレーション 2007年9月13日 「コンピューター科学並びに情報工学の分野の研究開発」			

国際連携



国際室 <http://www.ipo.titech.ac.jp/>

本学では、国際展開活動の視点を国際交流から国際連携へと進化させ、新たな国際活動を戦略的に展開するために国際戦略を策定しました。5つの重点項目が相互に関連し、国際室を中心に本学の国際化を強化・発展させます。

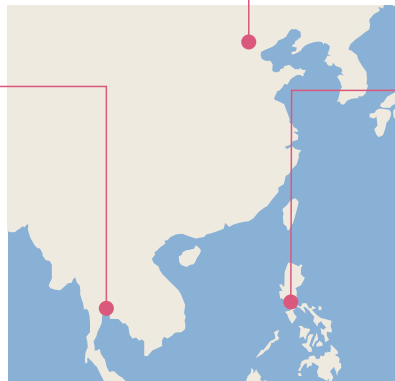
海外オフィス

本学では海外の大学と90以上の大学間協定、80以上の部局間協定を結んで、交流を行っています。さらに、本学と諸外国との学術交流及び国際連携を戦略的に推進するための活動拠点として、現在、海外3カ国3都市（タイ・バンコク、フィリピン・マニラ、中国・北京）にオフィスを設置しています。

タイオフィス

(Office in Bangkok, Thailand)
E-mail: tokyotech@titech.in.th
URL: <http://www.ttot.ipo.titech.ac.jp/>

タイオフィスは、平成14年9月、タイ王国首都バンコクのタイ王国サイエンスパーク内に設置されました。本学とタイ王国は、古くから学術交流を行っており、教育面では、開設後も衛星通信/インターネットによる遠隔講義を行い、学生・研究者等の人材交流などを行っています。また、その他タイで行われるイベントにおける支援、19年度から開始された東工大・タイ科学技術開発庁連携大学院（TAIST）事業に対する協力、帰国留学生や留学希望者への支援窓口としての活動も行っています。



北京オフィス

(Office in Beijing, China)
北京市清華大学キャンパス内に、平成16年に設置された清華大学合同プログラム北京事務所とは別に、新たに平成18年10月に東京工業大学・清華大学協力事務所を設置し、現在、教育研究活動の交流などを進めるため、整備を進めています。

フィリピンオフィス

(Office in Manila, Philippines)
URL: <http://www.ttop.ipo.titech.ac.jp/>
フィリピンオフィスは、平成17年9月、フィリピン共和国の首都マニラ中心部にあるデ・ラ・サール大学マニラ校内に設置されました。本学とフィリピンの学術交流の歴史も長く、これまで様々なプロジェクトが行われており、開設後はインターネットを使用した双方向の講義配信/受信などの教育研究活動の交流、帰国留学生を含む人脈の形成、語学研修を組み合わせた学生交流、本学の広報などの活動を展開しています。

文化・スポーツ活動

「コールクライネス」全日本合唱コンクール全国大会金賞受賞



学生サークル「コールクライネス」が、第60回全日本合唱コンクール全国大会で金賞を受賞しました。今回の受賞により、同サークルは10年連続の金賞受賞という快挙を成し遂げたことになります。

「コールクライネス」は昭和38年10月に誕生した大学合唱団です。男声は東工大、女声は東工大をはじめ、フェリス学院大、清泉女子大、日本女子大などを中心とする混声合唱団で、部員は総勢180名に達しています。週2回の練習の成果を、全日本合唱コンクール、学園祭や定期演奏会などで発表し、活発な活動を行っています。

「サイクリング部」 アジア室内大会優勝



学生サークル「サイクリング部」が第2回アジアインドアゲームズ・サイクルサッカー部門で優勝しました。

「サイクリング部」は、東京工業大学、お茶の水女子大学、東京外国語大学の学生を中心に組織されており、部員数は100名にもなります。所属する学生は皆、自転車が好きという共通点を持っていることはもちろんですが、一言に自転車と言ってもその乗り方には様々なかたちがあり、部内も主に「ツーリング班」、「サイクルボール班」、「レーサー班」の3班に分かれています。サイクルサッカーを行うのは「サイクルボール班」で、過去にもサイクルサッカーの全国大会で優勝、OBにはワールドカップ日本代表経験者がいるなど、その活躍が目まぐるしくなっています。

単3乾電池で有人飛行 ―東工大学生サークルと松下電器が世界初の試みに成功―



東工大学生サークル「マイスター」は、松下電器産業と協力して単3乾電池だけを動力としたプロペラ機を開発、世界で初めて有人飛行に成功しました。マイスターは琵琶湖の鳥人間コンテストで毎年優秀な結果を残している東工大学生を中心としたサークルで、「ものづくり」に興味のある学生が課外活動で集まり、人力飛行機やソーラーカーなどを製作しています。同社との協力で、幅31メートル、重さ54キログラムの、一人乗り用飛行機が、単3形乾電池160本で飛行距離391.4メートル、飛行時間は59秒、最大高度は6.11メートルを見事成功しました。この記録は、世界初の記録として日本航空協会に認定されました。

役員等紹介

役員

学長	伊賀 健一
理事・副学長(企画)	大倉 一郎
理事・副学長(経営)	牟田 博光
理事・副学長(教育)	齋藤 彬夫
理事・副学長(研究)	伊澤 達夫
監事	西村 吉雄
監事	鈴木 基之

部局長等

大学院理工学研究科長	岡崎 健
大学院理工学研究科理学系長	岡 眞
大学院理工学研究科工学系長	岡崎 健
大学院生命理工学研究科長	広瀬 茂久
大学院総合理工学研究科長	三島 良直
大学院情報理工学研究科長	古井 貞熙
大学院社会理工学研究科長	肥田野 登
大学院イノベーションマネジメント研究科長	圓川 隆夫
理学部長	岡 眞
工学部長	岡崎 健
生命理工学部長	広瀬 茂久
資源化学研究所長	吉田 賢右
精密工学研究所長	小林 功郎
応用セラミックス研究所長	近藤 建一
原子炉工学研究所長	有富 正憲
附属図書館長	高橋 幸雄
附属科学技術高等学校長	市村 禎二郎
事務局長	吉川 晃

教育研究評議会構成員

学長	伊賀 健一
理事・副学長	大倉 一郎
理事・副学長	牟田 博光
理事・副学長	齋藤 彬夫
理事・副学長	伊澤 達夫
大学院理工学研究科理学系長	岡 眞
大学院理工学研究科工学系長	岡崎 健
大学院生命理工学研究科長	広瀬 茂久
大学院総合理工学研究科長	三島 良直
大学院情報理工学研究科長	古井 貞熙
大学院社会理工学研究科長	肥田野 登
大学院イノベーションマネジメント研究科長	圓川 隆夫
理学部長	岡 眞
工学部長	岡崎 健
生命理工学部長	広瀬 茂久
資源化学研究所長	吉田 賢右
精密工学研究所長	小林 功郎
応用セラミックス研究所長	近藤 建一
原子炉工学研究所長	有富 正憲
大学院理工学研究科理学系教授	黒川 信重
同	鈴木 啓介
大学院理工学研究科工学系教授	岡田 清
同	小長井 誠
大学院生命理工学研究科教授	北爪 智哉
同	喜多村 直実
大学院総合理工学研究科教授	小林 隆夫
同	原科 幸彦
大学院情報理工学研究科教授	間瀬 茂
同	藤井 修二
大学院社会理工学研究科教授	中川 正宣
同	飯島 淳一
大学院イノベーションマネジメント研究科教授	田辺 孝二
炭素循環エネルギー研究センター教授	玉浦 裕

経営協議会構成員

公立学校共済組合理事長	工藤 智規
日立マクセル(株)相談役	桑原 洋
前お茶の水女子大学教授	篠塚 英子
(株)ぐるなび取締役会長 創業者	滝 久雄
前日新製鋼(株)相談役 (社)蔵前工業会理事長	田中 實
(財)化学技術戦略推進機構理事長	中島 邦雄
前日本放送協会会長	橋本 元一
(財)神奈川科学技術アカデミー理事長	藤嶋 昭
学長	伊賀 健一
理事・副学長	大倉 一郎
理事・副学長	牟田 博光
理事・副学長	齋藤 彬夫
理事・副学長	伊澤 達夫
大学院総合理工学研究科教授	石原 宏
大学院情報理工学研究科教授	瀧口 克己
事務局長	吉川 晃